

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム ぞう(ユニット1)	評価実施年月日	平成21年 3月15日
評価実施構成員氏名	梶田・前田・内田・高木・阿部		
記録者氏名	梶田	記録年月日	平成21年 3月20日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	事業所理念が「人のために、社会のために」という思いが入っており、地域のなかでのGHの役割を常に考えている。		
2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	職員採用時は必ず理念を伝え、理解してもらおう。またおりに触れて全職員に伝わる努力をしている。		日々の生活支援のなかで、理念が反映されているか時々振りかえりを大切に心がけたい。
3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	ご家族・地域の皆様には、訪問時、施設行事、見学等で機会があることに理解を求めている。		
2. 地域との支えあい			
4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	日常的に散歩でのご挨拶。その際に花を頂いたり、お気遣いの言葉も頂いている。また、収穫した野菜など届けていただいている。回覧板は入居者様が持っていき、会話がある。		
5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会に加入し、廃品回収や清掃行事など一緒に行っている。地域のお祭り、盆踊りなどの行事の際は必ず声をかけていただいている。		
6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	法人代表は実績・実践を踏まえ研修・会合に多くかかわり、認知症の理解・啓発に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	サービス評価の目的・意義について普段から意識し、行動している。		
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	会議開催時はざっくばらんに意見交換している。ホーム側の一方通行にならぬよう心がけている。		2ヶ月に一度には合わせることは難しいが、出来る限りの機会におこなっている。メンバーの負担も考慮している
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	去年1年は市町村との話し合いが多くもたれた。GHの運営と一緒に考えるよい機会になった。		今後も市町村と協働の取り組みが不可欠と思う。
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	ホーム全体で必要性については十分理解している。制度が必要と思われる入居者様について行政に働きかけている。		少々、ケースワーカーの対応に不安があり、今後も積極的に話し合いを重ねたい。
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	安全対策委員会を中心に日々入居者様の生活利益に心がけている。		
4. 理念を実践するための体制			
12 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の際には、重要事項は時間をとり説明を行っている。特に体調変化時、金額設定、加算等、生活用品の自己負担についてなど、個々のご家族の不安を伺うようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者様、ご家族の会話、態度から可能な限り察知し理解に務め、ユニットミーティング、全体会議等で共有している。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	毎月のホーム便り、手紙、写真の送付。個別にメールや電話にてちよくちよく知らせている。ご家族訪問時は職員は近々の報告を提供することを徹底している。金銭出納についても確認を行っている。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族に対しておりにふれて、ご意見、不安等がないかお聞きしている。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	幹部会議、年2回の職員個別面談を行い、思い意見等を把握する機会を設けている。		法人代表は職員の思いが入居者様の利益に繋がると考え機会を増やしている。
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	最大限職員自身が感じ行動できるよう代表の指導がある。		入居者様本意を大切にしている思いは継続したい。
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	今回、今一度今後の運営も考慮し人事を再検討した。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人代表は全職員個別能力を勘案し、どんな学びも大切と考え、法人内外問わず、研修の機会を増やし、特に外部研修参加を推進している。		
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	法人代表は北海道認知症高齢者GH協議会の役員をしており、同業者とのネットワーク作りGH全体の質の向上に努めている。必然と職員も取り組み参加となる。		
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	法人代表は年2回の個人面談、普段の会話の中から職員の思いはどこなのか把握に努めていると思う。		
22 向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	法人代表は、出張以外は現場にて個別職員の業務等を把握しながら、自身も学んだことを実践し、職員と共に向上心を持ちたいと考えており、職員に示している。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	出来る限り、ご本人との会話、行動見守りにて思いがどこにあるのか感じる努力を行っている。		
24 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	これまでのご家族の不安・ご苦勞を真摯に受け止め、把握してから次の段階へと進んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談を受けた時点で早急か否か、適切なサービスは何なのか考慮し、「ぞう」のネットワークをふるに活用している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	緊急でない限りは出来る限り、本人を中心としたたくさんのご家族、身内のかたにホームに足を運んでいただき、会話を重ねている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	認知症という病気の把握を重要視するのではなく、人間らしい生活のなかでの関係づくり、環境づくりに努め、「共生」という思いを大切にしている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族の思いも理解しつつ、入居者様の様子や言葉などを伝えることで、職員ご家族共に入居者様中心に考え、信頼関係が増している。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	家族参加型の行事を増やしたり、入居者様の誕生日パーティをホームで設定させていただき、ご本人と家族の時間を増やす努力をしてきた。		好評につき継続したい。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	出来る限りご本人の思いや状態に合わせ、懐かしい場面への外出には心がけているが全員ではない。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者様同士の関係作りが上手くいくように、職員がそれぞれが入居者様の状態を勘案し調整役になる環境作りをしている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービスが終了しても、電話の会話があったり、手紙のやり取りがあったりしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で、会話・表情などを把握・記録等に心がけご本人様のメッセージを受け取っている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時、または生活支援に必要と感じた場合は可能な限りご本人・ご家族・関係者より情報を頂いている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	入居者様一人ひとりの生活パターンを見つめ尊重している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	支援計画にご本人の過去・現在・未来が存在することに心がけ、アセスメントを含め職員全体でモニタリング、カンファレンスをおこなっている。あきらめず、粘り強くご本人を見守っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	入居者様の実情に合わせ支援計画を立案している。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	入居者様一人ひとりのファイルを作成し、食事量・水分量・排泄・体調管理およびご本人の生活の中にある些細な会話等にも配慮し気づきに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	ご本人・ご家族の状況・要望には柔軟に対応できる体制は取っている。特に通院等はご家族の精神的負担をかけないようにしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	地域の小・中学校・警察・町内役員の皆様にはGHの存在をご理解いただいている。		もっと強いパイプにしたい。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	包括支援センターの方々・居宅の方々にGHの理解を深めていただくために連携を持っている。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域のネットワーク作りや認知症の方々にも安心した地域づくりと一緒に考えるよう前進しました。SOSネットワークの再構築など、今後が楽しみです。GHの能力、役割でしっかり伝えていきたい。		左記を強化するためには包括支援センターとの協働は不可欠です。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご本人やご家族が希望する病院を受診している。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	開設当初からの協力医院の医師、看護師の理解のもと安心して気軽に相談ができる。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護職員も配置しており健康管理や状態変化に応じた支援をしている。協力医院の看護師とも連携をはかれる。介護職員も日常の様子を相談できている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院した場合は頻繁に職員が出向き、状態把握、話し合いを重ね方向性や早期退院へと勤めている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	開設当初からの入居者様が多いため重度化を踏まえ家族との今後の対応についての話し合い、意思確認が多くなった。場合によっては医師・各関係者との話し合いも設けている。		医療依存が多くなりつつあるため具体的な話し合いを多くしていきたい。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	完全なターミナルケアに向かいたいのが現状は難しい。が、ご家族の要望も個別にあるため話し合いを重ねている段階である。職員の意志統一、教育にも少し前向きさがでてきてはいる。		重度化、看取り希望の入居者様、ご家族に対して真摯に職員一同向き合っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>他事業所などに移られる場合はアセスメント・支援計画などご家族が同意して下さる場合は提供している。</p>		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>人前でご本人が恥ずかしい思いになるようなケア・態度はしないよう心がけている。</p>		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>職員が決定するのではなく、入居者様一人ひとり可能な限り選択肢を揃え本人が決められるよう職員は思い実践している。</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>基本的なホームの流れはあるものの、一人ひとりの生活パターンや体調に合わせた支援を行っている。 強制的な日課はありません。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>ご本人主体で整えられるよう職員が場面設定している。決定困難な方は職員が考え配慮している。</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>「食事」という行為を入居者様それぞれの状態・能力に合わせた意義あるものにしたと考え、配膳は出来なくても下膳はしていただく。調理はできなくても、買物、献立作成参加など。</p>		<p>「食べる」という行為を当ホームでは大切なことと捉えているので、今後も前向きに向き合っていく。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	職員は入居者様の好き嫌いをよく把握しており日々配慮している。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄支援必要な方には一人ひとりの排泄サインを職員は把握しており、さりげない誘導、さりげない支援に心がけている。排泄チェック表を使用し一人ひとりのパターンを把握し可能な限りトイレへ誘導。オムツ使用の方もそれぞれ合ったものを使用。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴を拒む人もいるが、言葉かけや対応を工夫している。羞恥心・恐怖心には配慮している。入浴曜日は決まるが、入る時間は本人の希望を聞く。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	一人ひとりの体調や希望を考慮し休んでいただくよう支援している。判断が困難な方は職員が判断している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	行えることは出来る限りおこなっている。習慣になっている方は自然に行っている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族の同意を得てご自身管理の方もいる。その他の方は預かり金をホームで管理し、外出や外食時にお渡ししている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	ご本人の希望や状態に合わせて、散歩、ドライブ等にでかけている。自分で畑や花を育てている方は自由に出入りしている。玄関のドアは自分で開けるものと思う。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	職員が会話の中からくみ取り、可能なものは計画をたて実行している。居酒屋・家族風呂、以前住んでいた場所等。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご自身で電話回線を引き自由に使用しているかたがいたり、ご家族とはがきの交換を行っている方もいる。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	ご家族が気兼ねなく訪問できるよう「ぞう」らしい雰囲気づくりに心がけている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員は身体拘束が身体的・精神的弊害を与えることを良く理解できている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜間は入居者様自身がカーテンを閉めて戸締りをする。また、入居者様がひとり外出した場合は、止めるのではなく、合わせた声かけをしたり、一緒についていくなど安全面に配慮しながら可能な限り自由に行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67	利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員は入居者様と同じ空間を大切に、記録やその他の作業をおこなっている。夜間はご本人の状態に合わせて確認している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	職員は入居者様の状況を踏まえ全てを管理してしまうのではなく、検討してから対応している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	安全対策委員会があり、日々入居者様の安全について検討している。是正報告書、ヒヤリハットの記録・集計に心がけ全職員の認識を図っている。今回昨年の評価機関のご指導のもと様式を変更してみた。		
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急マニュアル作成し機会があることに確認している。		応急手当等の研修会に職員を順番に参加させている。今後も継続させたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	マニュアルを作成し、年2回の避難訓練を継続。スプリンクラー設置も前向きに対応となる。		
72	リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	GHは認知症高齢者をただ収容する場所ではないこと、その人らしい生活を考えると一人ひとりにリスクが起こりえると、おりにふれて家族に説明している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	日々の状況を職員は把握しており、少しでも気づき・変化があれば管理者・看護師に報告・相談。職員間で共有し状況に合わせて病院受診としている。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の処方変更等があった場合は、全職員が把握するまで申し送る。誤薬等が昨年の自己評価では課題だったが、安全対策委員会が中心になり是正に心がけ意識の向上・成果につながった。		
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	入居者様の生活状況で食事・排泄・運動量などを考え出来る限り自然排便に務めている。下剤使用に関しても個々の状態を看護師・医師に相談している。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後の口腔ケアの徹底に力をいれている。それぞれの方の能力に応じて職員は誘導し支援している。個々の状態にあわせたブラシを使用。		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事・水分の摂取量を日々チェックし記録し、職員は情報を共有している。食事・水分が取りにくくなった場合でも、形態を変えたり、環境を変えたり工夫し支援している。		
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	口腔ケアの徹底により、季節型の感染症はなし。ご家族の同意をいただき予防接種も受けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	調理器具・台所回り・食器等の清潔・衛生を保つよう、栄養班が中心となり話し合い、啓発を行っている。 冷蔵庫・冷凍庫の食材の点検も頻繁に行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	ご家族・入居者様は雰囲気慣れた様子。 近所・地域の方々の訪問も多くなった。		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	可能な限り配慮している。 ご家族・見学者からは家庭的とよく言われるが、ハードではないような気がする。		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	限りはあるが、配慮はしている。		今後も職員で検討したい。
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	ご本人の持ち物が少なかったり、ご家族の協力が難しい場合でも職員は可能な限り入居者様一人ひとりを考えている。		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないように換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	各お部屋に温度計を設置。 冬期間は特に湿度に注意している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	入居者の状態に合わせて、安全で自立へ向いているか見直しながら配慮している。危険であってはこまるが、入居者の行動が広がるよう務めている。		
86 わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	入居者が混乱しにくいよう紛らわしいと思うものは配置していないが、あまりに重んじると優しさ・温かみが損なわれぬよう心がけている。		
87 建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	夏はホーム周りをプランターに花を植え、植える作業から水掛、片付けまで能力に応じてそれぞれの方が関わっている。		

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる 利用者2 / 3くらい 利用者1 / 3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている 利用者2 / 3くらい 利用者1 / 3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている 利用者2 / 3くらい 利用者1 / 3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている 利用者2 / 3くらい 利用者1 / 3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている 利用者2 / 3くらい 利用者1 / 3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている 利用者2 / 3くらい 利用者1 / 3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています 家族2 / 3くらい 家族1 / 3くらい ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている ほぼ毎日 数日に1回程度 たまに ほとんどない

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている</p> <p>大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載) 入居者様の一人ひとりの「笑顔」を大切に毎日向き合っています。今年に入居者様と一緒に「在る」とはどういうことが私たちの役割なのか？また「仲間づくり」を心がけ日々感じて行きたいと考え、すべての関わりに意識し、考え、行動してる。特段素晴らしいことはありませんが、入居者様と向き合う姿勢と思いは自慢していいかな？と思っています。職員の入れ替わりがありましたが、それぞれの職員がそれぞれに感じ意識変化がありました。今ホームに新しく、健やかな「風」が吹こうとしています。さあ～これからです。もっともっと「ぞう」を知っていただき、「人のために、社会のために」繋がり輪をひろげたいです。昨年の評価時同様、「食べる」「楽しむ」を「食べる」「楽しむ」「みんなと(家族・職員・誰とでも)」と広がってきました。「食べる」ことは人間にとって大切と実感し思いを継続しています。

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム ぞう(ユニット2)	評価実施年月日	平成21年 3月15日
評価実施構成員氏名	竹内・原田・表・土井		
記録者氏名	竹内	記録年月日	平成21年 3月20日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	事業所理念が「人のために、社会のために」という思いが入っており、地域の中でのGHの役割を常に考えている。		
2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	職員採用時は必ず理念を伝え理解してもらう。また折に触れて全職員に伝わる努力をしている。		日々の生活支援の中で、理念が反映されているか時々振りかえりを大切に心がけたい。
3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	ご家族・地域の皆様には、訪問時・施設行事・見学等で機会があるごとに理解を求めている。		
2. 地域との支えあい			
4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	日常的に散歩でのご挨拶。その際にお花を頂いたり、お気遣いの言葉も頂いている。また収穫した野菜などを届けていただいている。		
5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会に加入し、廃品回収や清掃行事など一緒に行っている。地域のお祭り、盆踊りなどの行事は必ず声をかけていただいている。		
6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	法人代表は実績・実践をふまえて研修・会合に多く関わり、認知症の理解・啓発に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	サービス評価の目的・意義について普段から意識行動している。		
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている。	会議開催時はホーム側の一方通行にならない話し合いに心がけ、それぞれの意見を聞いている。		2ヶ月に一度は少々困難。出来る限りの機会をもっている。
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	去年は介護報酬の変更や、スプリンクラーの件、SOSネットワークなど話し合いが多くもたれた。GHの運営と一緒に考える良い機会となった。		今後も市町村との協働の取り組みが不可欠と思う。
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	必要性は十分理解できている。制度が必要と思われる入居者様については行政に働きかけている。		少々、ケースワーカーの対応に不安がある。今後も積極的に話し合いを重ねたい。
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	安全対策委員会を中心に日々入居者様の生活利益に心がけている。		
4. 理念を実践するための体制			
12 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の際には、重要事項は時間をとり説明を行っている。特に体調変化時、金額設定、加算等、生活用品の自己負担についてなど、個々のご家族の不安を伺うようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者様、ご家族の会話、態度から可能なかぎり察知し理解に務め、ユニットミーティング、全体会議等で共有している。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	毎月のホーム便り、手紙、写真の送付、個別のメールや電話にてよく報告している。ご家族訪問時には職員は、近況報告を提供することを徹底している。金銭出納についても確認を行っている。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族にたいしておりにふれてご意見、不安等がないかお聞きしている。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	幹部会議、年2回の職員個別面談を行い、思いや意見等の把握の機会を設けている。		法人代表は、職員の思いが入居者様の利益に繋がると考え機会を増やしている。
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	最大限職員自身が感じ行動できるよう代表の指導がある。		入居者様本意を大切にしている思いは継続したい。
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	今回、今一度今後の運営を考慮し人事を再検討した。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人代表は全職員個別能力を勘案し、どんな学びも大切と考え、法人内外問わず研修の機会を増やし、特に外部研修さんかを推進している。		
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	法人代表は北海道認知症高齢者GH協議会の役員をしており、同業者のネットワーク作り、GH全体の質の向上に努めている。必然と職員も取り組み参加となり、慣れてきた。		
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	法人代表は年2回の個人面談、普段の会話の中から職員の思いはどこなのか把握につとめている。		
22 向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	法人代表は出張以外は現場にて個人職員業務等を把握しながら、自身も学んだことを実践し、職員共に向上心を持ちたいと考えており、職員に示している。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	出来る限りご本人との会話、行動・見守りにて思いがどこにあるのか感じる努力を行っている。		
24 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	これまでのご家族の不安・ご苦勞を真摯に受け止め、把握してから次の段階へと進めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談を受けた時点で早急か否か、適切なサービスは何なのか考慮し、「ぞう」のネットワークをふるに活用している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	緊急でない限りは出来る限り、本人を中心としたたくさんのご家族身内の方にホームに足を運んでいただき会話を重ねている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	認知症という病気の把握を重要視するのではなく、人間らしい生活の中での関係作り、環境作りに努め「共生」という思いを大切にしている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族の思いも理解しつつ、入居者様の様子言葉などを伝えることで、職員ご家族共に入居者様中心に考え、信頼感が増している。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	家族参加型の行事を増やしたり、入居者様の誕生日パーティをホームで設定させていただき、ご本人と家族の時間を増やす努力をしている。		好評につき継続していきたい。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	出来る限りご本人の思いや状態に合わせ、懐かしい場面への外出は心がけているが全員ではない。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者様同士の関係作りが上手くいくように、職員がそれぞれが入居者様の状態を勘案し調整役になる環境作りをしている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービスが終了しても、電話の会話があったり、手紙のやり取りがある。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で、会話・表情などを把握・記録等に心がけご本人の思いが理解できるようメッセージを受け取っている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時、または生活支援に必要と感じた場合は可能な限りご本人・ご家族・関係者より情報を頂いている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	入居者様一人ひとりの生活パターンを見つめ尊重している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	支援計画にご本人の過去・未来・現在が存在することに心がけ、アセスメントを含め職員全体でモニタリング、カンファレンスを行っている。あきらめず、粘り強くご本人を見守っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	入居者様の実情に合わせた支援計画を立案している。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	入居者様一人ひとりのファイルを作成し、食事量・水分量・排泄・体調管理およびご本人の生活の中にある些細な会話等にも配慮し気づきに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	ご本人・ご家族の状況・要望には柔軟に対応できる体制は取っている。特に通院等はご家族の精神的負担をかけないようにしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	地域の小・中学校・警察・町内役員の皆様にはGHの存在をご理解いただいている。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	包括支援センターの方々・居宅の方々にGHの理解を深めていただくために連携を持っている。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域のネットワーク作りや認知症の方々にも安心した地域づくりと一緒に考えるように前進しました。SOSネットワークの再構築など、今後は楽しみです。GHの能力、役割でしっかり伝えていきたい。		左記をもっと強化するためには包括支援センターとの協働は不可欠です。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご本人やご家族が希望する病院を受診している。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	開設当初からの協力の医師、看護師の理解のもと安心して気軽に相談できる。		
45	看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護職員も配置しており健康管理や状態変化に応じた支援をしている。協力医院の看護師とも連携が図れている。介護職員も様子を気兼ねなく相談できている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院した場合は頻繁に職員が出向き、状態把握、話し合いを重ね方向性や早期退院へと勤めている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	開設当初からの入居者が多いため重度化を踏まえ家族との今後の対応についての話し合い、意思確認が多くなった。場合によっては医師・各関係者との話し合いも設けている。		医療依存が多くなりつつあるため具体的な話し合いを多くしていきたい。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	完全なターミナルケアに向かいたいのが現状は難しい。が、ご家族の要望も個別にあるため話し合いを重ねている段階である。職員の意志統一、教育にも前向きさができてきている。		重度化、看取り希望の入居者様・ご家族に対して真摯に職員一同向き合っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>他事業所などに移られる場合はアセスメント・支援計画などご家族が同意して下さる場合は提供している。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>人前でご本人が恥ずかしい思いになるようなケア・態度はしないよう心がけている。</p>		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>職員が決定するのではなく、入居者様一人ひとり可能な限り選択肢を揃えご本人が決められるよう職員は感じ実践している。</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>基本的なホームの流れはあるものの、一人ひとりの生活パターンや体調に合わせた支援を行っている。 強制的な日課はありません。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>ご本人主体で整えられるよう職員が場面設定している。 決定困難な方は職員が考え配慮している。</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>「食事」という行為を入居者様それぞれの状態・能力に合わせた意義あるものにしたと考え、配膳はできなくても下膳はしていただく。調理はできなくても、買物、献立作成参加など。</p>		<p>「食べる」という行為を当ホームでは大切なことと捉えているので、今後も前向きに向き合っていく。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	職員は入居者様の好き嫌いを良く把握しており日々配慮している。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄支援必要な方には一人ひとりの排泄サインを職員は把握しており、さりげない誘導、さりげない支援に心がけている。排泄チェック表を使用し一人ひとりのパターンを把握し可能な限りトイレへ誘導。オムツ使用の方もそれぞれ合ったものを使用。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴を拒む方もいるが、言葉かけや対応を工夫している。羞恥心・恐怖心には配慮している。入浴曜日は決まるが、入る時間は本人の希望を聞く。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	一人ひとりの体調や希望を考慮し休んでいただくよう支援している。判断が困難な方は職員が判断している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	行えることは出来る限り行っている。習慣になっている方はもう自然になっている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族の同意を得てご自身管理の方もいる。その他の方預かり金をホームで管理し、外出や外食時にお渡ししている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	ご本人の希望や状態に合わせて、散歩、ドライブ等に出かけている。自分で畑や花を育てている方は自由に出入りしている。玄関のドアは自分で開けるものと思う。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	職員が会話の中からくみ取り、可能なものは計画をたて実行している。居酒屋・家族風呂、以前住んでいた場所等。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご自身で電話回線を引き自由に使用している方がいる。ご家族とはがきの交換を行っている方もいる。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	ご家族が気兼ねなく訪問できるよう「ぞう」らしい雰囲気づくりに心がけている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員は身体拘束が身体的・精神的弊害を与えることを良く理解できている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜間は入居者様自身が戸締りをする。入居者様が一人外出した場合は止めるのではなく、合わせた声かけをしたり、一緒についていくなど安全面に配慮しながら可能な限り自由になっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67	利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員は入居者様と同じ空間を大切に、記録やその他作業を行っている。夜間はご本人の状態に合わせて確認している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	職員は入居者様の状況を踏まえ全てを管理してしまうのではなく、検討してから対応している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	安全対策委員会があり、日々入居者様の安全について検討している。是正報告書、ヒヤリハットの記録・集計に全職員の認識を図っている。今回昨年の評価機関のご指導のもと様式を変更した。		
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急マニュアルを作成し機会があることに確認している。		応急手当等の研修会に職員を順番に参加させている。今後も継続させたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	マニュアル作成し、年2回の避難訓練を継続。スプリンクラーの設置も前向きに対応となる。		
72	リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	GHは認知症高齢者をただ収容する場所ではないこと、その人らしい生活を考えると一人ひとりにリスクが起こりえると、おりにふれて家族に説明している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	日々の状況を職員は把握しており、少しでも気づき・変化があれば管理者・看護師に報告・相談。職員間で共有し状況に合わせて病院受診としている。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の処方変更等があった場合は、全職員が把握するまで申し送る。誤薬等が昨年の自己評価では課題だったが、安全対策委員会が中心になり是正に心がけ意識の向上・成果につながった。		
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	入居者様の生活状況で食事・排泄・運動量などを考え可能な限り自然排便に務めている。下剤使用に際しても個々の状態を看護師・医師に相談している。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後の口腔ケアの徹底を図っている。それぞれの方の能力に応じて職員は支援している。個々の状態に合わせたブラシを使用。		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事・水分の摂取量を日々チェックし記録し、職員は情報を共有している。食事・水分がとりにくくなった場合でも、形態を変えたり、環境を変えたり工夫している。		
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	口腔ケアの徹底により、季節型の感染症はなし。ご家族の同意をいただき予防接種も受けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	調理器具・台所周り・食器等の清潔・衛生を保つよう、栄養班が中心となって話し合い啓発を行っている。冷蔵庫・冷凍庫の食材の点検も頻繁に行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	ご家族・入居者様は雰囲気慣れた様子。近所・地域の方々の訪問も多くなった。		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	可能な限り配慮し、ご家族・見学者からは家庭的と言われている。職員の対応や雰囲気作りに心掛けている。		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	限りはあるが、配慮している。		今後も検討する。
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	ご本人の持ち物が少なかったり、ご家族の協力が難しい場合でも職員は可能な限り入居者様一人ひとりを考え、工夫している。		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	各お部屋に温度計を設置。冬期間は特に湿度に注意している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>		
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>		<p>夏はホーム周りをプランターに花を植え、植える作業から水掛、片付けまで能力に応じてそれぞれの方が関わっている。 お花の苗もご家族・地域の方が届けてくださる。</p>

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない</p>

. サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載) 入居様一人ひとりの「笑顔」を大切に毎日向き合っています。今年に入居様と一緒に「在る」とはどういうことが私たちの役割なのか？また「仲間づくり」を心がけ日々感じていきたいと考え、すべての関わりに意識し、考え、行動している。特段素晴らしいことはありませんが、入居様と向き合う姿勢と想いは自慢してもいいかな？と思っています。職員の入れ替わりがありましたが、それぞれの職員がそれぞれに感じ意識変化がありました。今ホームに新しく、健やかな「風」が吹こうとしています。さあ～これからです。もっともっと「ぞう」を知っていただき「人のために、社会のために」繋がり輪を広げたいです。昨年の評価時同様、「食べる」「楽しむ」を「食べる」「楽しむ」「みんなと(家族・職員・誰とでも)」広がってきました。「食べる」ことは人間にとって大切と実感し思いを継続しています。